

## 第19期第2四半期業績のご報告

(平成26年7月1日～平成26年12月31日)

平成27年 3月 吉日  
日本システムバンク株式会社  
代表取締役社長 野坂 信嘉

当中間期におけるわが国経済は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動はあるものの、穏やかな回復基調となりました。年後半には、原油価格等の資源価格の下落、円安が進みました。駐車場業界におきましては、年後半まで続いたガソリン高の影響による自動車の乗り控え、消費税増税後の消費回復の遅れの影響など、厳しい事業環境が継続しました。

このような環境のもと、CPシステム運営事業では、収益性を考慮した駐車場の新規開発、既存駐車場の収益性の向上に努めて参りました。降雪地域の新規開発においては、雪による売上減を最小限にすべく、ラップレス駐車場の導入を推進致しました。既存駐車場においては、料金設定の最適化を継続的に実施して収益力の向上を図ったものの、増税等の外部環境の悪化の影響を受け、売上高 1,325,275 千円(前年同期比 99%)となりました。

CPシステム販売事業では、外部環境の影響による顧客既存駐車場の収益悪化により、開発計画が遅れる結果となりました。メンテナンス売上においても、開発計画の遅れの影響を受ける結果となりました。その結果、売上高 1,381,995 千円(前年同期比 97%)となりました。

プロパティマネジメント事業は、収益物件の一部売却による収入減により、売上高 124,062 千円(前年同期比 85%)となりました。

以上の結果、当中間期における売上高は 2,831,434 千円(前年同期比 82%)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

事業区分	金額	前年同期比
CPシステム運営事業	1,325,275 千円	99%
CPシステム販売管理事業	1,381,995 千円	97%
プロパティマネジメント事業	124,062 千円	85%
その他	100 千円	117%
計	2,831,434 千円	82%*1

\*1 前年のマンション事業を除いて算出しております。